

# 令和3・4年度人権教育研究指定校の実践

## 【 沼津市立門池小学校・門池中学校 小中連携による研究 】

小中一貫 人権教育推進研究主題

互いの良さを認め合い、学び合う子の育成を目指して

<小学校の研修主題>

互いの良さを認め合い思いを言葉に表し、  
伝え合い、学び合う子

<中学校の研修主題>

互いの良さを認め合い、豊かな心を育てる  
生徒

### 9年間の継続した積み重ねを軸とした小中共通の取組

#### 1 授業を軸とした取組

- (1) ステップ表を活用した取組  
他者受容・相手意識の育成
- (2) 子ども授業参観
- (3) 教職員授業参観  
9年間で目指す子どもの姿と  
現状を合わせて、「あたたかな  
聴き方・やさしい話し方」  
についての話し合いを継続
- (4) 小中合同研修会
- (5) 要請訪問

#### 「あたたかな聴き方・やさしい話し方」の実践

あたたかな聴き方	Step	やさしい話し方
自分の考えをいつ話したらよいか、 自分の出番を考えながら聴く	Step11	話し合いの論点に沿って自分の出番を考えて話す
自分の考えを深めたり広めたりするつもりで聴く	Step10	結論から述べ、根拠を明らかにして話す
聴いた内容について考えを深めるために相談相手を選 択する	Step 9	日常生活等の経験をもとに自分の考えを話す
聴いた内容について相談する	Step 8	友達の考えを詳しく話す
話し手の言いたいこと、話題の中心をとらえて聴く	Step 7	友達の考えや意見につなげて話す
聞きやすい場所に移動して聴く	Step 6	聞き手の反応を確かめながら話す
自分の考えと比べながら聴く	Step 5	言いたいことを区切って話す
自分の考えをもって聴く	Step 4	みんなに聞こえるような声の大きさで話す
人の話を最後まで聴く	Step 3	みんなの方を向いて話す
うなずいたり、つぶやいたりしながら聴く	Step 2	ゆっくり話す
話すの方を見て聴く	Step 1	指名されたら返事をする

#### 2 環境を整える取組

#### 教職員が人権尊重のモデルとなる

- (1) 人権尊重の視点での振り返り・価値付け・見直し  
当たり前のように取り組んできた活動の意義を考える
- (2) 教職員が自分自身を振り返り、相互に価値づける活動の実践
  - 小学校 自身の人権感覚を見つめる小グループでの話し合い活動「ラポールタイム」
  - 中学校 ChromeBookのJambord機能を活用しての人権に係るテーマの話し合い  
教職員版「あたたかな聴き方・やさしい話し方ステップ表」の作成と自己評価
- (3) 小中合同研修でのグループワーク  
KJ法などを用いて、中学校区として目指す子どものゴールの姿の共有と人権教育を進める  
上で心掛けることについての話し合い
- (4) メンタリングサークルの活動
- (5) 職員間での認め合い活動
- (6) 人権だより等による啓発等

### 3 各校での取組

#### (1) 門池小学校

環境を整える取組～教職員の人権感覚を高めるために～

- ・認め合いの花(教職員同士で良いところや嬉しかったことなどを紹介し合う)
- ・池池 GOGO! (OJT を兼ねた有志による座談会)・人権教育だよりの発行

研究発表会当日の様子(参観者より)

- ・相手を受入れる「あたたかな聴き方」と相手を意識した「やさしい話し方」が随所に見られ、一人一人が大切にされ、安心して学習に参加できるあたたかな雰囲気包まれていた。



研究発表会分散会より

- ・授業の中で継続的に人権意識を高めていく取組がたくさん見られ、自校でも生かしていきたいと思う。
- ・教職員が入れ替わっても学校全体で同じ方向に向いて取り組むことができる体制について参考にしたい。

#### (2) 門池中学校

環境を整える取組～指導部・学年部を中心に～

- ・門中スタンダード「みそあじ(身だしなみ、掃除、あいさつ、時間)」と門中生活目標「はあと(拍手、合わせ礼、止まってあいさつ)」の継続的な取組
- ・行事を中心に生徒主体の活動を実践

研究発表会当日の様子(参観者より)

- ・子どもたちのお互いの意見や考えに対する受け止めや反応が非常にあたたかく、議論をさらに深めていた。



- ・小中で9年間かけて創り上げた『聴き方・話し方』が日常の空気の中にしっかり溶け込んでいることを感じた。

研究発表会分散会より

- ・「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を日常的な場面から焦点化した研究により、些細なことでも人権を意識することの大切さを実感し、日頃のあらゆる活動の中から自校の様子を振り返ることができた。

### 4 成果及び今後の取組

- ・児童生徒の学校評価アンケート・全国学力学習調査から「学校が楽しい」「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「困った人がいる時、進んで助けている」「いじめはどんな理由があってもいけないこと」「あたたかな聴き方・やさしい話し方」について、小・中学校ともに数値が増加した。小中連携を意識した取組により、自己肯定感の高まりや学校が安心して自分を表出できる居場所となっていると思われる。
- ・教職員アンケート項目「人権意識が高まった教職員」「法令を遵守し人権意識をもって教育活動に専念している」との回答が100%であった。「さん付け」「授業時間を守る」「教師主導でない活動」「自己決定の機会を作る」「子どもの出番を作る」など9年間で意識することができ、教職員自身が人権尊重のモデルにならなければならないという基本的な理解が進み、人権感覚が向上した。
- ・これまでの取組を人権の視点で見直すことで、活動の目的が明確となり、より工夫した内容へと改善することができ、学校全体の人権意識向上について効果を上げることができた。
- ・今後は、中学卒業時の生徒の姿を明確にし評価することで、中・長期的な視点での成果の検証や、これまで培ってきた人権尊重の教育を地域と連携しながら持続可能な取組として根付かせていきたい。